首都圏等の学校図書館実務者へのインタビュー　記録[1]

日時：平成 25 年 6 月 23 日 13 時～16 時
場所：国立国会図書館国際子ども図書館　研修室
参加者：（所属は学校図書館事例調査の実施当時のもの）（各校の概要は報告書の第 3 章を参照。）
　f 氏（私立男子中高一貫 I 校　司書教諭）
　g 氏（国立共学中学 C 校　学校司書）
　h 氏（公立共学中学 B 校　学校司書）
　i 氏（公立共学中学 A 校　読書指導員）
　j 氏（私立女子中学 F 校　司書教諭）
　k 氏（私立男子中学 E 校　司書教諭）
　青山比呂乃（私立共学インターナショナルスクール・中高一貫 G 校　司書教諭）ファシリテーター　研究会委員
　橋詰秋子（国立国会図書館国際子ども図書館　児童サービス課企画推進係）事務局
　高宮光江（国立国会図書館国際子ども図書館　児童サービス課企画推進係）事務局
　堤真紀（国立国会図書館国際子ども図書館　児童サービス課企画推進係）事務局

【導入】

青：今日は、学校図書館事情調査にご協力いただいた皆さんに集まってもらいました。中学生を対象としていてどういう所で苦労しているか、（配布した）各種調査の中間報告結果を見ての感想、（調査結果の分析において）気を付けて欲しい点などがあれば、お聞きしたいと思っています。学校図書館の担当者同士で話し合う中で、「なるほど」という気づきが出てくればと思います。

青：まず、私から自己紹介します。幼小中高のインターナショナルスクールと中高一貫校が併設されている学校の図書館に勤務しています。学校全体の生徒数は、700 名です。主に、私ともう一人英語担当の司書教諭と二人で選書をしています。では続いて隣の方から、簡単に自己紹介をお願いします。

f：[私立男子中高一貫 I 校]の専任の司書教諭の f です。私は（他の方に比べると、学校図書館担当者としての経験年数は）短くて、[私立男子中高一貫 I 校]に来たのは 99 年からです。以前は別の高校の国語の教員でした。本校では、高 1 で社会科基礎課程修了論文があり、（生徒は）1 月に論文を提出します。この修了論文が、ここでいう調べ学習だと思います。また、中 1 生には、社会科地理で「仮想旅行」という課題が課されます。ある国へ行った気になって、その国について調べて書くものです。中学生の調べ学習支援という点では、この課題や家庭科でのテーマ学習が該当すると思います。この 6 月に、修了論文のテーマ決めがあって、全員分の（修了論文の）テーマを見ましたが、千差万別のテーマが出ています。

1　本記録は、報告書『学校図書館におけるコレクション形成：国際子ども図書館の中高生向け「調べものの部屋」開設に向けて』の「5.3　首都圏等の学校図書館実務者へのインタビュー要約」の要約前のインタビュー会話記録である。分かりやすくするため、事務局が見出しや補足を追記している。

g : [国立共学中学 C 校]の司書の g です。今回の機会をもらい改めて自分の選書を考えてみましたが、結構行き当たりばったりで、結果的にこういう蔵書構成になっていた、9 類がこんなにあったのか、というのが正直な感想です。おそらく私の場合、2 種類の選書があると思います。（授業で使うなどの）必要に迫られたものを選ぶことが一つで、もう一つは、子どもたちが必要としていると思われる本と大人として子どもたちに手渡したい本を、その時その時の状況を踏まえて判断して選ぶことです。

子どもたちの情報活用能力の育成については、学校全体の方針として目指している訳ではないのですが、どの先生も生徒の色々な能力を活かそうと考えていらっしゃるので、授業の中で（情報活用能力の育成につながる）図書館活用をしようと意識されていると思います。（学校図書館で）授業をしたいという先生とは、相談しながらやっています。生徒一人一人を見て、（一人一人に適した）アドバイスができる司書でいたいと思っています。

h : [公立共学中学 B 校]で、今年の 3 月まで学校司書として勤務していた h です。学校図書館を辞めたのにこのような会に参加するのもどうかと思いましたが、昨年（B 校の学校図書館に）来て調査をしてもらった責任もあり、出席することにしました。

基本的に、調べ学習には自館の資料だけでは足りないので、他の公共図書館から借りています。その時に、「これは使える」という資料を一つずつ丁寧に調べて、（後でその資料を自館に）入れて蔵書を揃えてきました。

i : 元[公立共学中学 A 校]の司書の i です。3 月までは[公立共学中学 A 校]にいて、4 月から（同じ市内の）別の学校に異動になりました。今の学校では、図書館のコレクション形成を始めたばかりです。[公立共学中学 A 校]のコレクションは、もともと 9 類が大変多く集団読書用のテキストが多く含まれていました。([公立共学中学 A 校]に）勤務していた 5 年の間、集団読書はされなかったので、蔵書を（実際の利用方法に合うように）少しずつ変えました。

[公立共学中学 A 校]では、平成 14 年から、年間 10 時間の総合的な学習の時間を使って、450 人の生徒全員がそれぞれのテーマを持って調べ学習をしていました。毎年初回の授業は「調べるテーマは見つけよう」という内容で、（学校図書館は）4 月から生徒のテーマ決めに関わっていました。（生徒が選ぶ）テーマはだいたいパターンが決まっています。テーマが決まってから資料を集めていては間に合わないので、前年度からどんなテーマに（生徒が）興味を持つか考え、子どもが選びそうなテーマ（例：オリンピック）集めておくことをしていました。同じ本ばかり何冊も所蔵するのは…と思うので、（市内の他の）学校図書館や公共図書館との相互貸借も使って資料を集めていました。「花火」を調べる子がいるなら、うちの学校で 3 冊揃え、他館の蔵書を調べて他館からあと 1 冊借りて、一つのテーマにつき一人最低 4 冊は手渡す、という形で調べ学習を支援してきました。

j : [私立女子中学 F 校]の専任司書教諭の j です。私は経験がとても長く、中学校ができて 27 年間、1 期生から関わっています。創立当初から何も言わなくても授業の中で学校図書館が使われてきたのですが、インターネットが普及した 2000 年頃に一時期、使われなくなったことがあります。その時期に、学校図書館の意義は何だろうと自問自答しました。そして、学校図書館はいろんな教科をつなぐハブ機能を持っているのではと気付き、勝手に色々な授業で行われている調べものをつないでしまおうと考えました。

「教科教員が何かやってくれるかも」と待っていても変わらないです。（授業をつなぐという意識を持って活動してきた結果）最近ようやく、地理の教員で、“（調べ学習を使って）地理を教える”のではなく、“（調べ学習を）地理で教えたい”と言ってくれる人も出てきました。教科教員と一緒に相談・計画しながら調べ学習を進めることで、少しずつ学校の中で調べるとい

う活動の位置付けを変えていくようにしています。細々とやっています。まだ、[私立女子中学F]では探究的な学習をカリキュラム化するところまでいっていないので、学校図書館の活用をきちんと体系化したいと思っていますが、体系化をどうやって進めていくかは検討中です。

k：[私立男子中学 E 校]の司書教諭の k です。授業での学校図書館の利用はほとんどありません。総合学習の時間割もありません。赴任当初は、図書館を使って授業をしてもらうことに立ち位置を見つけようと考えましたが、図書館を使った授業が教科の先生達のやりたい授業の狙いと必ずしも合うわけでないと気づいたので、今は熱心なアピールはしていません。

授業中に（生徒が）調べに来る機会は年数回あるかないかなので、使う教科の先生（のリクエスト）で資料が増える、ということをコレクション形成の足がかりにできません。結果的に、まんべんなくいろんな本が揃っているコレクションになっているかなと思っています。蔵書データの分析調査の結果を見せてもらいましたが、改めて、特徴もない何も突出もない蔵書構成だなと思いました。

図書館利用とつながる学校行事という点では、「労作展」という、生徒一人一人が好きな教科で課題を設定して秋の展覧会で発表するという学習活動があります。非常に歴史のある学習活動ですが、全て課外活動で授業での指導はしません。生徒は、労作展に必要な資料を図書館に借りに来ますが、一時期にわっと来る訳ではないし、ある分野が突出している訳でもないので、あるテーマのある資料を突出して集める訳にはいかず、広くまんべんなくあらゆる教科、あらゆるテーマの資料を揃えています。あとは理科で、毎週 2 コマ連続で実験をして 10～20 枚のレポートを書かせることがあります。これに対する資料提供はものすごく大事なのですが、同じ学年が同じテーマのレポートを書くため、資料提供が重複してしまいます。図書館資料では全員に対応できないので、ブックリストを作って、「もう学校図書館の資料は借りられて無いので、近くの公共図書館へ行きなさい」というアナウンスをしています。資料の直接提供は限界があるので。

【所蔵が多いタイトルを見て】

青：（次ページの〔インタビューで提示した「表　所蔵が多いタイトル（中間報告）」〕を見て）調査結果の中間報告を見て、これはこう考える、という意見がありますか。

g：所蔵館数の上位のタイトル（4 ページ参照）は驚くものではないと思います。妥当で面白くないというか、あって当然な本というか。中間より下のランクの本に、各学校の個性が表れていて面白いかもと思いました。

青：（所蔵館数ではなく）利用頻度で分析する手もありますね。

f：貸出件数は出せるが、そのデータを使った分析は難しいですね。調べものによく使われる資料には、禁帯出の参考図書もありますし。

k：うちも、カエルの解剖のレポートが出た時は、一時的にその関連資料を禁帯にします。こういう本の利用度は貸出件数に現われないですよね。また、参考図書が全て禁帯という訳でもないです。むしろ、上位本を入れてない学校が数校ありますが、どうして入れないのか知りたいですね（笑）。

g：このタイトルリスト自体は面白くないけど、全部の学校（13 館）入れている本が数冊しかないのは驚きです。

(参考)インタビューで提示した「表　所蔵が多いタイトル（中間報告)」

※インタビュー調査では、学校図書館の蔵書データの分析調査（報告書第 4 章）のインタビュー実施時点での中間報告を参加者に提示した。
※本表の内容は、報告書第 4 章の表 4-3 と同様である。分析調査の対象館 13 館分の蔵書データを計量的に分析し、所蔵館数が多いタイトルの上位を集計した結果である。

所蔵館数	所蔵冊数	書名	著者	出版社	出版年
13	25	13歳のハローワーク	村上龍	幻冬舎	2003
13	21	きみの友だち	重松清	新潮社	2005
13	14	素数ゼミの謎	吉村仁	文藝春秋	2005
12	28	いのちの食べかた	森達也	理論社	2004
12	24	沈黙の春	レイチェル・カーソン	新潮社	1974
12	22	世界を信じるためのメソッド：	森達也	理論社	2006
12	18	ぼくを探しに	シルヴァスタイン	講談社	1977
12	16	化石	ポール・D.テイラー	同朋舎出版	1991
12	14	魔法使いハウルと火の悪魔	ダイアナ・ウィン・ジョー	徳間書店	1997
12	13	鬼の橋	伊藤遊	福音館書店	1998
12	12	弟の戦争	ロバート・ウェストール	徳間書店	1995
11	41	あのころはフリードリヒがいた	ハンス・ペーター・リヒ	岩波書店	2000
11	29	塩狩峠	三浦綾子	新潮社	1968
11	24	西の魔女が死んだ	梨木香歩	新潮社	2001
11	22	クローディアの秘密	E.L.カニグズバーグ	岩波書店	2000
11	21	黒い雨	井伏鱒二	新潮社	2003
11	21	ごんぎつね	新美南吉	講談社	1986
11	19	ことばの力	大岡信	花神社	1978
11	19	盗賊会社	星新一	理論社	2003
11	19	高村光太郎	福田 清人	新潮社	1984
11	17	詩のこころを読む	茨木のり子	岩波書店	1979
11	17	黒い兄弟	リザ・テツナー	あすなろ書房	2002
11	17	14歳からの哲学	池田晶子	トランスビュー	2003
11	16	声に出して読みたい日本語	齋藤孝	草思社	2001
11	16	ドリームバスター	宮部みゆき	徳間書店	2001
11	16	世にも美しい数学入門	藤原正彦	筑摩書房	2005
11	16	ダレン・シャン	Darren Shan	小学館	2002
11	15	ごみから地球を考える	八太昭道	岩波書店	1991
11	15	ローワンと魔法の地図	エミリー・ロッダ	あすなろ書房	2000
11	15	ダレン・シャン	Darren Shan	小学館	2002
11	15	トラベリング・パンツ	アン・ブラッシェアーズ	理論社	2002
11	14	ダレン・シャン	Darren Shan	小学館	2004
11	14	東京が燃えた日	早乙女勝元	岩波書店	1979
11	14	鉄道員	浅田次郎	集英社	1997
11	14	ダレン・シャン	Darren Shan	小学館	2002
11	14	夜明けの覇者	Darren Shan	小学館	2003
11	14	坂本竜馬	古川薫	小峰書店	2000
11	13	種をまく人	ポール・フライシュマン	あすなろ書房	1998
11	13	みんなのなやみ	重松清	理論社	2004
11	13	グッドラック	アレックス・ロビラ	ポプラ社	2004
11	13	風が強く吹いている	三浦しをん	新潮社	2006
11	13	ダレン・シャン	Darren Shan	小学館	2001
11	13	夜の山道で	星新一	理論社	2002
11	13	南総里見八犬伝 第1の物語	滝沢馬琴 原	偕成社	2002
11	13	手塚治虫がねがったこと	斎藤次郎	岩波書店	1989
11	13	宇宙の男たち	星新一	理論社	2004
11	13	アブダラと空飛ぶ絨毯	ダイアナ・ウィン・ジョー	徳間書店	1997
11	12	のはらうた	工藤直子	童話屋	1987
11	12	100万回生きたねこ	佐野洋子	講談社	1986
11	12	一億百万光年先に住むウサ	那須田淳	理論社	2006
11	12	いつでも会える	菊田まりこ	学習研究社	1998
11	12	裁き司最後の戦い	ラルフ・イーザウ	あすなろ書房	2001
11	12	センス・オブ・ワンダー	レイチェル・カーソン	新潮社	1996
11	12	温室デイズ	瀬尾まいこ	角川書店	2006
11	12	ひとしずくの水	ウォルター・ウィック	あすなろ書房	1998
11	12	ジョナさん	片川優子	講談社	2005
11	12	14歳からの仕事道	玄田有史	理論社	2005
11	12	さもないと	星新一	理論社	2003
11	11	天と地を測った男	岡崎ひでたか	くもん出版	2003
11	11	ローワンと黄金の谷の謎	エミリー・ロッダ	あすなろ書房	2001
11	11	セカンド・ショット	川島誠	角川書店	2003
11	11	包帯クラブ	天童荒太	筑摩書房	2006
11	11	こどものためのドラッグ大全	深見填	理論社	2005
11	11	数え方の辞典	飯田朝子	小学館	2004
11	11	ドリームバスター	宮部みゆき	徳間書店	2003

橋：（データ分析調査では）、学校同士の重複率も出したのですが、意外にも、全然重複していないという結果になりました。皆が共通して持っている本はごく少なかったのです。参考図書など必ず入ると思っていた本が挙がっていなかったので、どうしてか気になって分析の元データを見てみたのですが、版違いで所蔵されているために、リストに挙がってこないタイトルがあると分かりました。例えば、『広辞苑』（岩波書店）や『ポプラディア』（ポプラ社）などがそうでした。

k：（版の違いは無視して）タイトルで寄せてリスト化しては。ますます面白くない結果になりそうですが（笑）。

h：『13 歳のハローワーク』（幻冬舎）は、調べ学習に使える本かいうと（調べ学習には）使えないと思います。職業に貴賤はないよ、という説明には使えますが。以前、全国の学校に寄贈があったから、持っている館が多いのだと思います。『塩狩峠』は、数年前の課題図書ですね。こうやって見ると、何を買ってよいか分からない先生が話題になった本を複本でぽんと入れたのが上位に上がってきたのかもと思います。

f：『なるには』Books シリーズ（ペリカン社）は基本図書だと思いますか。

皆　いやいや。調べ学習では使いにくいです。

g j：ゼロからコレクションを作る時、最初のベースとなる資料は全国 SLA の『学校図書館基本図書目録』から選びます。各校の蔵書が、『学校図書館基本図書目録』とどう違うのか分析したら、面白いのではないでしょうか。

【中学生向けの資料とは】

青：高校生の調べものには一応大人の本が使えるので、多種多様な本が存在しています。小学生も、小学生向けの調べ学習用の本が出ているイメージです。しかし、その間にある中学生は、学校図書館で調べ学習用の本を集めるとなると、『ポプラディア情報館』は足りないし、もっと深く調べたいという時に使う資料はなかなか無いと思います。少なくとも 20 年前はそうでした。インターナショナルスクールでは、小学校 3 年生程度から調べ学習みたいな事をするので、教科書とは別に調べもの用の英語資料が結構存在しているのですが。

f：高校生は簡単ですが、中学生は本当に困ります。困るというのは、背伸びをさせるか、しゃがませるかのどちらかになるからです。どちらかといえば、僕は背伸びさせたいと思っています。中高生向けの「調べものの部屋」を作ることになっていますが、中学生向けの部屋を作るのはかなり難しい。国際子ども図書館がどこで腹をくくるか。ここが絶対問われると思いますよ。つまり、背伸びさせるというスタンスでいくのか、中学はここまでと決めるか。

g：私は、本のレベルの幅広さが、むしろ中学生の良さではないかと思っています。うちの学校では調べ学習の必要から、中学生向けに出版された資料だけでなく、（小学生向けの）易しい資料も置いています。中学生以下向けに出版された本に必要な情報が載っておらず、調べものに足りないなという時は、もうちょっと難しい、でもあまり難し過ぎない一般書も集めます。

f：しゃがませる本が駄目という訳ではなく、必要ではあるのですが、中学生だからといって「この本は難しすぎる」と止めては駄目だと思います。そこから先の難しい本も入れる。（生徒の学

校教育が）義務教育で終わるとすれば、中学校は大人になるための最後の準備期間なのだから、難しい本があってよいと思います。調べものの部屋も、そういう観点で作らないとつまらなくなるのでは。

g：公共図書館の児童室やヤングアダルトコーナーがつまらなく見えてしまう感じと似ているかもしれませんね。一般書がないと、コレクションの広がりや面白さが見えてこないですよね。

k：見た目で、字が大きくてふりがなの振ってある資料は、内容は十分使えるかもしれなくても、中学生にはプライドがあるので、嫌がりますね。最近、領土問題の３巻本を入れましたが、（生徒は）手に取らない…。どうしてかというと見た目が小学高学年向けだから。内容もよく目配りしていて中学生でも十分使えるのですが、中学生は、見た目で「こういうもん」と言います。

i：私学と公立校では、状況が違うかもしれません。うちの学校では、図があって、説明がまとまっている本でないと生徒は手に取りません。中学２年の職業調べで、文字ばかりの『なるには』ブックスを手に取る子はいないです。消防士になりたいという子でも、「もっと絵があるもの」とかと言って『おしごと図鑑』（フレーベル館）を渡すと「こっちの方がぜってえいい」と言って喜びます。ところが、中学３年の後半になっていよいよ進路を考える頃になると、「先生、前に紹介してくれた『消防士になるには』というあの字ばっかりの本はどこ」と聞いてきます。中３になって『なるには』をやっと見る感じです。

　中学の３年間は、ものすごく成長するので、何種類もレベルの違うものを紹介するようにしています。中学３年間の差は大きいです。中１では『のはらうた』（童話屋）が大人気ですが、中３になると、詩を選択した子に『のはらうた』を渡すと「うーん、違う」と言うし。だから、きっとここに来館する子でも、13 歳くらいで『こびとづかん』（長崎出版）読みたい子もいるかもしれないですね。一括りに中高生と言っても差が大きいので、高校生向けの資料も並べておくけど、中１向けも置いておくのがよいと思います。

k：『なるには』シリーズもそうですが、『〇〇を知る●章』シリーズ（明石書店）も（中学生の調べ学習には）使いにくいですね。文章だけで説明されているので。中学１年生には図解が必要です。文章で説明されている本は基礎知識がないと読めないと思います。（中学校の）最初は図解が多い本ちょっと小学生っぽい本なら読める。次の段階になると、文字ばかりの本も読める。最初から文章ばかりの本は難しい。

g：今の生徒にはあまりやる気がないように感じます。切実感があると食いつきますが、すぐ「めんどくさっ」って言うし。子どもの気持ちはどこにあるか、（やる気が）ない子にどう食いつかせるか…。

青：やる気さえあれば読めますよね。小学校の時からそのテーマが大好きという子は、難しい内容や文章の本でも読みます。やる気のある中学生のエネルギーは、しらけてしまった高校生よりあります。

h：中学生は能力の差がありますが、それ以上に（調べものに使える）時間の制約がありますね。『なるには』が使えないのは、調べ学習の授業で２時間も３時間も使えないから。１時間で仕上げましょうとなるとおのずと使える資料も限定されてきます。子どもたちが使える時間によって、使える資料の内容も変わってきます。

「調べものの部屋」に来て、「あー、こんなことが分かった」と思って帰っていくのを期待するのであれば、小学校高学年程度の本ぐらいがよいと思います。実際には、そのレベルの本を読み込んで「あー良かった」と言えるところまでいけるかも難しいですが…。

k：読みこんだら面白い資料と、調べて面白い資料は違いますね。

j：『なるには』なら、必要な個所、例えば資格のページだけに（付箋を貼るなりして）切り出して手渡せば、1時間の調べでも使える本になります。そういう意味では使える本かも。

【中学生の調べ学習について】

青　小学校の調べ学習には、正解探しのイメージを持っています。ですが、大人になってからの調べものは、正解が無いかもしれないし、設問自体も自分で考え出さなければならなくなる。小学校の単純な調べから大人の研究活動につなげるためには、「答えがない場合もある」と生徒に気付かせる必要があります。その啓蒙として、「この資料はない」という状態を生徒に見せるということも必要だと思います。

青　「見つかった本は、全部読まなくちゃいけないですか」と心配するのが中学生。本の中から必要な部分を見つける、つまり必要な部分を抜き出すという本の使い方を生徒に知らせる必要があります。また、教科の教員にはそういう使い方を知らない人も多い。（「調べものの部屋」が）そういう使い方を生徒や教員が知る場になればよいと良いと思います。

f：今言われたことは、根本的な問題だと思います。逆に、ひっくり返すようなことを言うと、「調べ学習は必要なんですか」という問いがあります。なぜ（一斉授業ではなく）調べ学習をやるんですか、ということ。一斉授業の意味、調べ学習で出来ること出来ないことを考える必要があると思います。図書館に行って授業すればよいという問題ではないです。

g　うちの場合は、一斉授業の中に部分的に（図書館での調べ学習を）組み込んでいます。教員が予め選んでおいた複数の資料の中から生徒に資料を選ばせ、それを読み込みなさいと勧める。生徒はそれを読んで自分の言葉に直して発表する、という流れで行うこともあります。社会科のある単元の途中で、生徒に調べものをさせることも。生徒たちの調べで足りない知識は教員が補う。調べものはあくまで手段として使っていて、結果的に、生徒は当該単元で習得が求められている知識を学ぶことになります。調べたら終わりの授業ではないです。座学による一斉授業でも良い学習ができると思いますが、調べものを加えることで、もっと良い授業にできるのではないでしょうか。どの教科でも、図書館の活用によって良い授業になる部分があると思います。

j：私も、図書館を使う授業をしたいと言う先生には、事前相談の時に、「何のためにここに図書館での調べが入るのですか」と聞いています。

g：学校図書館を使った授業も、回を重ねると、教員自らが図書館に足を運んでくれて図書館にどんな本があるか把握してくれるようになります。ただし、授業で使う本を図書館員と一緒に選ぶことのない教員は、足を運ぶようにはならないですね。

i：[公立共学中学 A]では、国語科教員が図書館に通ってくれて、資料を前にしながら司書と一緒に授業計画を練ったことがあります。こうしたやり方は、初めてでした。教員自身が、面白

い授業をしたいと考えていたようです。教員が図書館に足を運ぶようになると、授業の中で図書館員はどう動いたらよいかも分かってきます。良い資料があるのが前提ですが、教員が授業での本の活かし方を知らないと始まらないと思います。探究活動を充実させるには、教員が図書館の中に入るしかないと思います。司書がいくら頑張ってコレクションを作っても、教員が使わないと活きてきません。図書館に来て授業案を検討する教科教員と図書館員が用意する優れたコレクションの両方があってこそ、充実した探究学習が成立すると思います。

【電子資料の扱いについて】

青：今後、学校図書館での有料データベース、ウェブ接続などはどうなると思いますか。

f：紙と電子データベースについて、「調べものの部屋」ではどのようにする予定ですか。本校でもデータベースを試験的に導入した事があるのですが、最初はもの珍しさがあって使われましたが、利用指導も十分でなく、使われなくなって、今は入れていません。

青：電子資料を入れていない[私立男子中学 E 校]の様子を聞かせてもらえませんか？

k：[私立男子中学 E]は、生徒にインターネットやデータベースを使わせていません。その理由は、“停電しても生きていける人間を育てる”というのが学校の教育方針だから（笑）。携帯電話の校内の持込みは禁止されていて、それらは学校生活において“存在しないもの”として扱われています。生徒にはコピー機も使わせていません。生徒はコピーができないので、必要箇所は書き写さなければならない。書き写す文章が長文で面倒な場合は、おのずと要約することになります。学校図書館は、教育とセットで資料を利活用する場であるので、学校の方針に従って図書館サービスも提供してきました。制限の中でのパフォーマンスということ。

　ただし、生徒は家に帰ればインターネットが使える環境にいるし、実際にインターネットを使ってレポートを書く子もいます。学校図書館では、インターネットには出てこない内容の本を集めるよう心掛けています。例えば、先ほど紹介した理科の実験レポートには、昭和 40 年代刊行の『動物の解剖（地球出版）』が一番役に立ちます。この本に載っている情報は、インターネットを検索しても出てこないのです。生徒に、ペンだこを作りながらでも学校図書館を使った方が良いと分からせたいと思っています。

h：[公立共学中学 B]では、インターネットにアクセスできるパソコンは置いていますが、基本的には生徒には使わせていません。というのは、調べものでは、調べるプロセス（どんなふうに情報を探して必要な部分を抜き出してまとめるか）を教えたいからです。インターネットを使う場面は、情報が足りない場合に、図書館員がプリントアウトして生徒に渡す時くらいです。

g：家に帰ってネットで適当に書けばよいと思う子もいます。「本は面倒くさい」と言って、キーワード検索して出てきた情報を書き写す。課題を出した先生の意図は、「教科書や資料集を読み取って、目次をみて必要な情報を抜き出せ」ということなのに。子どもたちの中で、「調べる」＝「書き写す」になっていると思います。ネットは魔法の玉手箱と思っている。

青：調べ学習の方法をうまく開発していけばインターネットの使用は必ずしも駄目ではないですよね。生徒は易きに流れるので、課題の出し方もポイントですね。

（参考）インタビューで提示した「表　各校の蔵書の傾向（中間報告）」

※インタビュー調査では、学校図書館の蔵書データの分析調査（報告書第４章）のインタビュー実施時点での中間報告を参加者に提示した。
インタビュー調査の対象館 10 館分の蔵書データを計量的に分析した結果である。

	NDC	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
私立男子中高一貫Ｉ校	タイトル数	1473	2698	7057	7702	6665	2601	1358	5777	1323	13667
	構成比	2.9%	5.4%	14.0%	15.3%	13.2%	5.2%	2.7%	11.5%	2.6%	27.2%
	出版年	1989.0	1988.0	1988.6	1992.0	1988.5	1991.9	1991.5	1989.6	1992.4	1984.6
公立共学中学Ｂ校	タイトル数	417	374	1494	1648	1421	905	430	1533	394	6196
	構成比	2.8%	2.5%	10.1%	11.1%	9.6%	6.1%	2.9%	10.3%	2.7%	41.8%
	出版年	1999.6	2000.2	1998.9	2000.0	1997.0	1999.5	2001.2	1997.6	1949.4	2000.9
私立男子中学Ｅ校	タイトル数	1343	969	4714	3204	4086	1784	952	4218	1978	8368
	構成比	4.2%	3.1%	14.9%	10.1%	12.9%	5.6%	3.0%	13.3%	6.3%	26.5%
	出版年	1985.3	1992.4	1991.6	1995.4	1995.5	1998.4	1997.8	1993.6	1982.7	1993.6
私立共学 IS・中高一貫Ｇ校	タイトル数	197	143	761	766	1114	482	233	586	227	1578
	構成比	3.2%	2.3%	12.5%	12.6%	18.3%	7.9%	3.8%	9.6%	3.7%	25.9%
	出版年	1993.5	1992.8	1993.0	1994.5	1991.9	1994.4	1996.7	1994.3	1994.4	1995.5
私立女子中学Ｆ校	タイトル数	372	661	2129	2250	2058	1648	657	2180	611	4453
	構成比	2.2%	3.9%	12.5%	13.2%	12.1%	9.7%	3.9%	12.8%	3.6%	26.2%
	出版年	1998.427	1996.915	1997.123	2000.265	1998.874	1999.401	1998.553	1996.916	1996.859	1996.138
私立共学中高一貫Ｈ校	タイトル数	1052	2232	3471	4995	4953	2673	1981	4409	1076	11935
	構成比	2.7%	5.8%	9.0%	12.9%	12.8%	6.9%	5.1%	11.4%	2.8%	30.8%
	出版年	1996.7	1990.0	1991.4	1998.9	1999.0	2001.9	2003.1	1998.1	1994.5	1992.3
私立男子中高一貫Ｊ校	タイトル数	1473	3128	7271	8615	5832	3212	1892	5883	2614	15793
	構成比	2.6%	5.6%	13.1%	15.5%	10.5%	5.8%	3.4%	10.6%	4.7%	28.3%
	出版年	1994.3	1989.1	1991.4	1994.9	1995.6	1998.6	1999.0	1992.0	1997.1	1990.1
私立共学中学Ｃ校	タイトル数	1292	2055	4471	4685	4306	1710	949	3866	1101	7256
	構成比	4.1%	6.5%	14.1%	14.8%	13.6%	5.4%	3.0%	12.2%	3.5%	22.9%
	出版年	1996.9	1994.5	1997.0	1998.6	2000.5	2002.3	2001.1	1999.1	1996.1	1996.0
公立共学中学Ａ校	タイトル数	162	246	849	780	820	418	194	941	174	2632
	構成比	2.2%	3.4%	11.8%	10.8%	11.4%	5.8%	2.7%	13.0%	2.4%	36.5%
	出版年	1998.3	1995.8	1995.3	1998.6	1996.4	1997.0	1999.7	1996.8	1996.5	1998.1

【除架・除籍について】
f：（前ページの〔インタビューで提示した「表　各校の蔵書の傾向（中間報告）」〕を見て）現場の感覚でいうと、修論では社会科学系の本の利用が多いので、[私立男子中高一貫Ⅰ校]の 3 類が多いのは納得できます。9 類を見ると、[公立共学中学 B 校]41.8%、その次は[公立共学中学 A 校]が 36.5%と高いですね。[私立男子中高一貫Ⅰ校]は出版年が古い。それに比べると、[公立共学中学 B 校]や[公立共学中学 A 校]は比較的、出版年が新しいです。
　原則として、資料が古いのはまずいと思いました。特にデータは新しい方が良いし、更新していくことの大事さを実感しました。一方、さっきの話を聞いてぎくっとしたのは、『動物の解剖』は、今はもう売っていない本ですよね。本には、そういう希少性があります。出版年は必ずしも新しくないが、古くても捨てがたい本をどうピックアップするか。難しいけれど。

g：うちもは、除籍をしているが、近現代の写真はインターネットにまだ出てこないので、『朝日年鑑』を 40 年分くらい取ってあります。

青　（新規購入だけでなく）更新も図書館員の仕事ですね。図書館員としての力が現れます。方針が絶対必要になります。更新にも、購入時と同じだけの手間や時間がかかります。

f：国際子ども図書館が「調べものの部屋」を作る時に気を付けた方がいいですね。本は、新しければ良いっていうものではないですし。

k：今の話でいえば、うちには「ソ連」コーナーがあります。「ソ連」と書いてある当時の本やアポロが出ている古い雑誌などを一角に集めています。ボロボロの古い本から読み取れる当時の空気があると思います。子どもたちは、「おおっ」「やべえよ」と声を上げて本を見ますし。こうした情報もインターネットでは出てきません。こういう本を見ると、「こういう時代は本当にあったのだな」と実感できまする。ソ連が出てくる古い本はもはや（化石標本のような）実物資料となっているので絶対に捨てません。

青：情報には、ネットで調べた方が良いものもありますが、ネットは一つの選択肢に過ぎないですね。必要な情報は何で、それはどこにあるのか、そういうものがどこあって使える状態にあるのか。（蔵書の）更新の時に気を付けることは、選書方針、廃棄方針でしょう。今のソ連の話のように、昔の空気を取っておくべきという方針、それを先生方と共有して使える状態にしておくのが大切だと思います。

f：うちでは、昔の写真やデータは貴重だと思って、『朝日年鑑』を 30～40 年分取ってあります。リアルな写真が載っているので。

j：以前、地理で調べ学習をした時、20 年前のケニアと現在のケニアを調べたいと（教員に）言われ、「失敗した」と思ったことがあります。古い資料は既に廃棄していたので、公共図書館で借りて対応しましたが、古いデータが載っている資料も必要だと感じました。

i:うちは､南極観測船しらせに関する茶色でボロボロの本を持っています｡捨てる寸前だったのですが、しらせの隊員が学校に来て講演する行事があり、参考資料としてその本を展示したら、「実際の話だったんだ」と生徒が喜びました。残しておいて良かったと思いました。

【「調べものの部屋（仮称）」について】
f：「調べものの部屋」は、どういう部屋になるのですか？

橋：今回のプロジェクトを進めながら、段々と固まってきたイメージがあります。どちらかというと、答えを見つけて書き写すタイプの調べではなくて、探究する姿勢、考え続ける姿勢、答えはすぐでないがあきらめないで考え続けるんだという事に気が付く場や、探究活動を少しでも感じられる体験プログラムを提供できたらと考えています。図書館は、考え続けられるための材料が得られる場だと、子ども

たちが気づけると良いと思います。付き添いの先生にも、探究の場としての図書館の意義を気付いてもらいたい、というのが今のところのコンセプトです。

k：冊数は？

橋：1 万冊位です。中学校の学校図書館の平均的所蔵冊数程度の蔵書規模です。部屋が狭いので沢山の本は置けません。0 から 8 類中心の蔵書構成で、調べもので使える本を揃える予定です。

g：9 類は、全然置かないのですか？

橋：9 類は、国語の教科書に掲載された作品を中心に揃える予定です。なので、結構、蔵書に偏りがある部屋になると思います。

g：その場にわくわく感がないと、中学生は（すぐに）帰ってしまうかもしれないですね。

f：「ちょっと変な調べもの」コーナーがあってもいいのでは？ギネスブックとか人気ですよ。

g：子どもたちは自発的に来るのですか。

橋：修学旅行や郊外学習の一環で、来てもらう想定です。班別行動で来るとか。

gk：修学旅行で真剣に調べ学習をやりますか？「めんどくさーい」「やりたくねえ」「東京まできて調べ学習させられるんだ」って言いそうです。

j：「人」を調べるとか、「もの」を調べるとか、調べるコースを用意したらどうでしょう。

青：やってみようかなと思えるテーマで（探究を）やって、（探究が）こんなに面白いのかと思ってくれたら嬉しいですね。でも、1 年間かけて本気でやるレベルの探究は、とても出来ない。例えば、「ウルトラマン」の資料が沢山あって、「ちょっと調べたけど結構深いなあ、もっとやりたいなあ」と思ってくれたらよいのでは。「これくらい知っているさ」というテーマをここで調べ直したら、こんなに深いのか、と知るのでも良いですね。

g：職員がアドバイスをしてくれる？

橋：もちろん、そうできるとよいですね。

g：あらかじめ（調べる）モデルコースを決めておいてはどうですか。モデルコースで使う資料の中に、思いもよらないような面白い本も仕掛けて入れておくとか。

h：面白そうなお店（資料）を広げておくのがいいですね。例えば理科の本で、『ビヨンド：惑星探査機が見た太陽系』という面白い写真集がありますが、それがあるような部屋。天体が好きな子って必ずいるから。

g：“この一冊から始まる探究の世界”ということですね。

k：“このテーマについてやりたい人はおいで”という形ね。鉄（鉄道マニア）、戦国武将とか。

全員：天体、鉄道、ファッション、アニメ、ゲーム、戦国武将(歴女)　…

k：「君たちは好きでこんな本もこんな本も読んでいるかもしれないが、実は、こんなものもある」と示

せれば、鉄ちゃんは来ますね。

g：全部お仕着せコースではなく、半分オリジナルで好きなテーマを選ばせたら。

青：「きゃあー！すごい！」となる子が増えるとよいですね。中学生は、グループ行動の時、そのグループの雰囲気（が良ければ）でイマイチと思っていた子もやる気になることがありますね。そうなった時に、うまく調べられるようなテーマが示せるかがポイントかもしれません。
　中 1 と中 3 とでは違うという話がありましたが、男子と女子でも全然違いますね。そういう意味で、（コレクションには）バラエティーが必要ですね。（興味のあるテーマについて）オタクの世界に入るような子は、そのオタクの世界なら大人の本も読みますし。
h：上野という立地を、（調べものの部屋の）売りにできるのではないですか。上野を使って探究できるというのは、すごいこと。以前、科博のアステカ展に行ったら、すごいメモを取っている子どもを見かけました。（その子は）もう本当に熱心に情報を取っていました。田舎から見ると、（博物館や美術館が集まる）こういう立地はとても羨ましい。

青：科学博物館とうまくコラボできればと考えています。

f：科学博物館の本物の見てみよう、などはいい。理系はいいですね。ことばと実物がつながるから。

k：生徒は課題になれば一生懸命やると思いますが…。

j：東京にいると（上野には）あまり来ないですね…。

f：修学旅行での利用だけでなく、調べものの部屋ではレファレンスをするのですか。国立国会図書館のレファレンスの中高生バージョンのような。

橋：はい。今でも、中高生のレファレンスには回答しています。ただ、成長途中の子どもたちに対するレファレンスは、成人向けのレファレンスとちょっと違うと考えていて、例えば、（成人向けレファレンスの回答のように）答えが載っている情報源を示すことが、子どもたちにとって良いことなのか・・・。むしろ（答えを教えるのではなく）調べ方を案内すべきなのではないか、一緒に調べてみるべきではないかと思ったり。

g：調べ方が分からない先生のフォローはどうするのですか？ここの資料を使って模擬授業をやるのはどうですか。

青：探究プログラムは、やり始めるとフォローが必要になりますね。

橋：ただ、教育学分野のレファレンスは原則的に東京本館の所掌になりますので、（国際子ども図書館には）教育関係の資料は厳選されたものしか置けないのです。国際子ども図書館では、教育学に立ち戻った授業研究ではなく、調べ方指導のノウハウしか紹介できない。

fg：いやいや、そういう内容（授業研究）ではなく、この部屋でやった体験を持って帰って学校でもやる、というノウハウを伝えて欲しいということです。

橋：そういうことでしたら、部屋で得られたノウハウは、ホームページなど通じて提供したいと考えています。

f：中学生、中 3 ぐらいでも自分が知りたいテーマがない子もいます。（「調べものの部屋」で）子どもたちは、既存のコースを選ぶのか、来る前に調べるテーマを考えておくのか、国際子ども図書館へ来てからテーマを考えるのか。その場でテーマを考えるとなると時間がかかります。

橋：中学生は「お仕着せは嫌」と言って、既存のテーマだと調べるモチベーションが沸かないということを聞いたことがあるのですが。この間の関西のインタビューの中で、生徒が思いつきがちなテーマは20個位という話があったので、予めテーマを用意しておきたいとは考えていますが。

i：市の教育委員会(教育センター)が、夏休みに公共図書館で「調べもの相談会」を開いています。医師、博物館の学芸員などが子どもたちの調べものの相談に乗っています。例えば以前、「聖徳太子はいるのか」ということを調べた子がいました。図書館の本では「いる」「いない」という両方の説があって、子どもが混乱して博物館の人に相談したら、「わからない」ということになって。その子と一緒に、どうしたらいいか考えました。文献では調べるのが難しいので、聖徳太子に縁がある寺社20か所、「聖徳寺」とか長野とか熊本の寺を探して電話して、「あなたはどう思うか」と確認するやり方にしました。大変でしたが、（聖徳太子が）いるからこそ、そうした寺もあるのだ、という結論になりました。

橋：正に探究ですね。考えを進めていって、本に書いてあるものが答ではないという。

青：そういうことを始めたらそこまでやるというエネルギーが中学生にはありますね。

k：この部屋で、そういうことをすべてサポートしたい、というのですが、1 万冊でどこまでやれますか。

青：こっちにはこう書いてあって、あっちはこう、教科書にはこう書いてあるが、答えがない、というプロセスを始める段階まで、3 時間で出来たら良いのではないでしょうか。どこまで調べたらおしまいではなく、収まらないものとして。

g：文献の中からいろんな諸説が読み取れて、自分はどの説を取るか、ということできたらすごいですが。

k：3 時間の体験プログラムで、そこまで出来るでしょうか…。私たちは、学校で、3 年間に 1 回でもそういう体験をしてほしいと思って、授業を組み、図書館でも時間を費やして蔵書を揃えて、なんとか調べる方法を教えて…と苦労してやっていても、なかなか子どもたちに体験してもらえなくて日々悩んで仕事をしています。国際子ども図書館が、学校図書館からノウハウを抽出して作ったプログラムで、簡単に子どもたちに役立つ体験ができるなんて、そもそもコンセプトとして無理があるのでは…。
　例えば、調べものをしなくていい、というのはどうですか。紅茶に興味がある生徒が、東京のすごく大きな図書館に来た。そして「調べものの部屋」を見た時に、「わー、紅茶の本がこんなにいっぱい、こんなに本がある」と知る、読むものが一杯ある。好きなら、むさぼり読むだけでも楽しいですよね。それだけで 3 時間がぱーっと過ぎます。自分の近所の公共図書館では出会いきれない本、自分の好きなテーマの本が目の前にわぁーっとある中で、「好きなもの読んでいていいよ」という幸せな 3 時間を提供するだけで、そういう方が行きたい気持ちになると思います。刺激という意味での 3 時間しか無理なのでは。

橋：紅茶の本を大量に揃えるのですか？

fgk：中学生が興味をもつテーマの本を集中的に集める、という意味です。

橋：そうすると「調べものの部屋」では、図書館が持つ“知の体系”というか“知の多重性”が見えなくなってしまうのでは？単なる特定テーマコレクションの集合になってしまうのでは？

fgk：100 テーマについて各 100 冊揃えてはどうですか？（それくらいあれば）分類順でも並ぶと思います。意外におもしろいのでは。

g：1テーマ 100 冊はすごい。50 冊でも中学生ならすごいと思いますよ。アニメでも、50 冊でアニメを調べることができたら、すごい。

k：逆に、どこにでもあるような本は入れなくてもよいのでは。

g：イギリスのテーマと紅茶のテーマは関わるとか、テーマが交錯するかもしれない。交錯したところの面白さもある。例えば、OPAC の件名検索で「紅茶」って入れても出てこないけど、じつは紅茶を好きな子が読むと面白い、という本も含めて入っているとコレクションの奥が深くなりますね。

h：私は地方だったので、東京で大きな本屋に行くだけで楽しかったです。

橋：それは全国の学校図書館に役立つのでしょうか。

皆：役立ちますよ。

k：中高生に共通するテーマはある程度分かるし、あぶれるテーマはもちろんあって、もれなく対応はできないけど。

橋：全部をフォローするのはあきらめる？

青：全部フォローできたら、そのコレクションは国会図書館になってしまいますね。

f：あぶれるテーマを補うなら、ネットの情報でしょうね。

g：例えば、「紅茶」と検索したら、室内見取図にぱっと本の在りか表示されたり、データベースや新聞記事も用意できるとか。沢山出てきたら、中学生は「うぉー」と思うはず。

f：新聞記事検索データベースで「紅茶」と検索して、いっぱい「紅茶」の記事がでてくるだけでも良いかも。

k：うちの生徒の場合、もし戦国武将コーナーがあって、もしそこに 100 冊あったら、ずうっと読みふけって一日出てこない（笑い）。そういう経験は地方にいたり、普段の子どもの生活範囲の中ではなかなかできないことだと思います。

青：例えば、大阪府立図書館はその年に出版された児童書を全部買って持っています。図書館に勤める人間としては、新刊書が全部揃っていたら閲覧したい。本を全部持っているのは、すごい魅力。個々の学校図書館ではどうしても切れ端情報を集めることになるけれど、（調べものの部屋で）特定テーマの本がこんなに沢山あると生徒に見せられたら良いですね。

橋：そこに、どうやって“探究”を入れるのですか。

g：おのずと入りますよ。好きなテーマに入っていくこと自体が、探究につながると思います。

橋：学校図書館が真似できますか。部屋のコンセプトとして学校図書館支援をしたいのですが。

k：真似できないからこそ重要だし、中学生向けにこういう本があると示してもらうことも（学校図書館にとって）意味があります。

g：分類ごとに 10 テーマずつ決めても、いいかもしれないですね。ほら、よく「犬」について調べる本は、どの分類にもあるというのがありますよね。「紅茶」を調べても、結構、0 から 8 類までの本が揃う

ことになるかもしれませんよ。

k：そもそも、何のテーマで調べ体験プログラムをやる想定だったのですか。

橋：「職業調べ」とか「国際理解」とか。

k：「国際理解」「職業調べ」のテーマを、生徒が楽しく調べるのは難しいのでは。それは教師目線。（笑）

橋：学校側のニーズがあるのでは、と思っていたのですが。

k：それでは、子どもたちは楽しかったとはならないですね。それだったら、学校でも普段できるし。

f：教師目線で部屋を作って、子どもたちにも面白がらせるのは無理です。どちらかを取るべきでは。

k：子どもたちがやるプログラムを作るのなら、子ども目線の「おーっ」となるものの方が絶対にいいと思います。子どもたちの「面白かった」という声は、先生の自信にもつながりますし。

青：皆さんの図書館の蔵書は、その学校の生徒に使われる本のコレクションになっていますよね。

橋：今回の調査で、学校図書館の蔵書で重複するタイトルがごく少なかったという結果になったのですが、これは、そういうことが理由かもしれませんね。自校で実際に使う資料が充実していくので、状況が違う他校の蔵書とは一緒にならないということかも。

g：「学校図書館活用データベース（東京学芸大学学校図書館運営専門員会）」の中の事例ですが、アスリートについて調べる授業があり、アスリートの資料をたくさん集めた高校があったそうです。生徒たちは、思った以上に大量の本があり、その中から好きな本を選ぶことできてうれしがって、「ここまで集めてすごいなあ」「いろんなスポーツがあるな」「すごいな」と言っていたと。コレクションの面白さ、「うわあ、たくさん」というすごさがありますよね。大量の本が持つ“わくわく感”があります。

f：予算をもらって、「調べものの部屋」コレクションを、入れ替えたり充実させていくのは？集めるテーマを少しずつ増やせばいい。1 年 1 万冊追加すれば、10 年たったら 10 万冊。

橋：確かに「アニメ」のテーマの本は、更新せざるを得ないですね。入れ替えは必要だと思います。1 テーマ 100 冊ぐらいとすると、テーマの粒度の感覚は、どのくらいですか。例えば、「戦国武将」で 100 冊ですか。

f：「戦国武将」で 100 冊だと少ない印象ですね。「織田信長」で 100 冊だと、すごいという印象。

青：本当に中学生に使いやすい資料は少ないので、それは絶対に全部入れて、後は、オタクな（好きな子は読める）本をどこまで入れるか、ですよね。コレクションのコアとして中学生向け資料があって、それとのバランスを見る。専門書といっても、大学図書館や専門図書館のレベルまでの研究書はなくて良いだろうし。

橋：教師目線か生徒目線かという話でいえば、皆さんの学校は熱心なので“探究”と言ってすぐ分かってくださるが、全国的に見れば、「調べ学習」と「探究学習」の違いを理解している教員は多くはないと思います。「探究」や「図書館」への意識があまりない教員が、生徒の引率であっても「調べものの部屋」に来ることで、探究とは何で、図書館とはどういう場所で何ができるか、知ることができる部屋にしたい、と思っていました。

青：先生はたぶん、普段本に見向きもしない生徒が本を読んでいるだけで嬉しいと思います。それだけ

で感動するはず。

皆：確かに「（普段読まないののに、ここでは）なんで（読むの）？」と思う。それが起こるようなコレクションがあって、テーマがあって、が面白いよね。

k：例えば…、2 時間半くらい“本まみれ”になって好きな本を読んで、最後の 30 分でちょっと何かをまとめて書く。要約を書く、目次をうつす、などの小さな作業をすることにしては？教師には、中学生がわっと書くエネルギーを見せつける。実は、彼らはそういうエネルギーを持っていると思うし。

g：「一番面白かった本はどれか」を、書かせてもいい。グループで 50 冊を回し読みでも良いですね。

青：「この課題をやるにはどの本が一番よいでしょう」と選んでもらうのは、結構いいかも。クイズ的にやるのもいいですね。

k：例えば、同じテーマの課題を 10 くらい設定し、それを 10 人に割り振って一番使える本を選んでもらうのも面白いです。

i：科学の授業で、「身の回りの不思議を調べよう」という 3 時間の調べ学習をやったことがあります。身の回りの不思議について、「天体」とか「生物」とか「気象」とか「電気」とかの分野を事前に決めておいて、その分野の本は他校からも集めました。また、ワークシートを作って、自分でテーマを決めて、何を調べたいのか、分かったことは何かを書けるように準備しました。ところが、（やってみると）子どもたちは「天体」「星座」のテーマに集中して、「電子レンジ」などは見向きもしなかった。「ビックバン」などの難しいことを調べ子が多くて、先生は「これは失敗でした。星や天体は理解するのが難しいテーマで、本があっても、生徒が本から必要な情報を読み取って理解するのは難しい」と言われました。小学校向きの本の（該当箇所に）付箋を付けたりしたにも関わらず、3 時間では調べが終わらなかったので、次のクラスでは、分野を（中学生が理解しやすい）「生き物の身体の秘密」「電気」だけに絞ってやりました

f：文章や情報を写すことで終わってしまい、それで授業・学習をしたという感覚になってしまうのはよくない。理論がベースにある難しいテーマだと、理解するのは難しいです。

青：中学生は、まだ常識がないところが多いですよね。つまり、中学の授業で「常識」を学んでいる最中、世の中の判断ができるようになろうとしている子たちです。概念を理解していないし概念同士の体系ができていないので、とりあえず検索でヒットしたから必要な情報に違いないと判断して、写しているだけというのが、実際のところでしょう。でも、情報を書き写す、切り出すだけでも、中学生にとっては大したものです。つまり、中学生としては、「ちゃんとした情報をちゃんと書き写す」ことは勉強なっていると思います。逆に言えば、その作業は否定しない方がいいですね。
　でも、先生は、書けるか書けないかで成否を判断するのではなく、書けなかったことにも意味がある、ということを理解する必要があります。知識を教えたければ一斉授業できっちりやるのがいい訳だし、探究学習では、「これも調べて、あれにはこう書いてあって、あれも調べたけど答えがでない」という子がいてもいいと思います。すぐには分からない事を知るのも大切でしょう。

h：でも、子どもたちが嬉しそうワンステップ成長した姿を見られないと、先生は、調べ学習が成功しなかったと思いがちです。だから、私は、理解できないものをテーマに設定してはいけないと思います。「わかったぞ」は嬉しいし、嬉しそうに書く生徒の姿を先生に見せることが大事だと思います。

青：3 時間で何が書けますか？

f：それが難しいですね。生徒がどこまで分かるかというと表面的な事実関係までですよ。「紅茶」の場合は事実関係で終わるからいいです。理論があるテーマの場合は、理解まで求めるのは無理でしょう。

例えば、ビックバン、電気の仕組み、原子とは何かというテーマは、そう簡単に理解までは求められない。

h：きちんと答えが出るテーマ設定にした方が良いと思います。その中で選択制にするとか。分かったことを形にしていく方が嬉しいです。

青：「調べものの部屋」での調べとしては完結するけど、次に続く気持ちが持たせられれば。例えば、今回「紅茶」調べをやったけど、自分はまだまだ別のことも知りたくなった、という探究学習に対する意欲みたいなものが引き出せるといいのですが。

k：テーマを決めて 3 時間で答えを出すのは無理では？「調べものの部屋」で、課題を調べてまとめて正解を出すことは難しい・・課題を出しではいけない。ビックバンが何かについて調べるという課題にしてはいけない。

青：(「調べものの部屋」に来た）成果が、「使えそうな本がリスト化できた」というのでもいいかも。

k：最後に、ちょっとしたクイズをするのも良さそうですね。先生に対するお土産ということなら、このクイズは、探究のこの部分を狙ってやっている、学校で続きをやるならこうしましょう、という資料を渡すとか。そういうお土産はどうでしょう。

g：去年、社会科地理の調べ学習で「紅茶」を選んだ生徒がいましたが、地理の先生は「じゃあ、ここに地理的視点を」と言われました。多様な視点の本を見るだけも意味があると思います。

k：「紅茶を地理的視点で調べるにはどの本が使える？」というクイズにするとか。他にも、例えば、資料評価の練習はどうでしょう？情報源を選ぶ練習で、「一番面白い本はどれか」とか。

g：「１冊もらって帰る事が出来るとしたら、どの本がいい？」と選んでもらうとか。

皆：それはいいですね！（笑）

k：持って帰えることができると、真剣に選びそうです（笑)。一番高そうなのを選んだりとか。

【学校図書館のコレクション形成に影響を与える志向性について】

青：残り時間わずかなのですが、「学校図書館のコレクション形成に影響を与える 4 つの志向性（中間報告)」（次ページ参照）について、どう思いますか。

j：私は、＜志向性α　児童図書館サービスの延長・発展＞なんだろうなと思いました。

h：私には、＜志向性β　大学図書館への知的継続性＞がそぐわない印象です。大人が読む本も揃えているので、「大人につながっていく知的継続性」としてはどうですか。「大学」というのは要らないのではないでしょうか。中高一貫の進学校は大学に視野が向いているかもしれないですが、地方では、（中学卒業後）就職する子が多い学校もあります。

f：＜β＞は「シチズンシップ教育を意識して」、つまり市民教育という意味として捉えては？

青：生涯教育というイメージですね。ただ、＜β＞は大学というか研究の方向性もあります。

k：大人に向かうと同時に、大学受験も意識するのでカッコ書きで（大学）としてはどうでしょう。

青：＜志向性γ　（公共図書館的？）利用者ニーズの重視＞の利用者ニーズに応えるというのは、ちゃ

んと動いている図書館はどこもやっているものですが。

(参考)インタビューで提示した「学校図書館のコレクション形成に影響を与える志向性（中間報告）」

※インタビュー調査では、学校図書館事例調査（報告書第 3 章）のインタビュー実施時点での中間報告を参加者に提示した。
※報告書の第 3 章には、参加者の意見を受けて修正・再整理した最終版を掲載している。

- ✓ 訪問調査と情報源に関する補足調査によって、各校の学校図書館の状況や専任担当者のコレクション形成に関する考え方、授業での使い方、資料選定で用いる情報源等を明らかにすることができた。これらの結果と各校のコレクションを比較・考察すると、学校図書館のコレクション形成には、影響を与えている志向性（要因）が複数あると推察された。
- ✓ この志向性を、下記α～δの 4 つに整理した。（この他に、男子校／女子校／共学校の別も要因の一つに考えられるが、ここでは対象としない。）実際の学校図書館では、これらの 4 つが様々な比率で組み合わされて、各校のコレクション形成に影響を及ぼしていると推測される。

学校図書館のコレクション形成に影響を与える 4 つの志向性
＜志向性α＞　児童図書館サービスの延長・発展 ・ 読書材の選書に現れることが多い志向性。読書材は、本の中まで読んで判断している ・ 選書の情報源として、東京子ども図書館や教文館ナルニア国の出版物に信頼を置く ・ この志向性は全ての調査校で見られた。特に、勤続年数が長い専任担当者がいる図書館や中学校のみを対象とした図書館で強い
＜志向性β＞　大学図書館への知的継続性 ・ 大学の教養学部につながる資料を揃えている（例：岩波文庫等を全点購入している） ・ 選書の情報源として、大学図書館の新着情報や新聞の書評欄を用いる ・ この志向性は、歴史のある私学の中高一貫校の図書館で強い
＜志向性γ＞　（公共図書館的？）利用者ニーズの重視 ・ 生徒や教員のニーズに応えることを重視している ・ 図書館を使う教員の授業（カリキュラム）に必要な資料を揃えることを意識している ・ 選書の情報源として、生徒や教員のリクエスト、生徒が作成したレポートの参考文献・注記等を用いる。公共図書館のヤングアダルト向けホームページも参照する ・ この志向性も全ての調査校で見受けられたが、ニーズに応える程度は各校の方針や予算によって異なる
＜志向性δ＞　生徒の情報リテラシー養成の重視 ・ データ整理（OPAC への件名・キーワード付与）を重視 ・ 図書以外の資料（新聞・雑誌・データベース等）の収集・提供を意識 ・ この志向性を明言する学校は少なかった(G 校のみ)。司書教諭が情報リテラシー関連の授業を行っている図書館で見受けられる

f：“利用者ニーズ”とまとめてしまうのは、ちょっと…。教員のリクエストも自分が読みたい本のリクエストではなく、生徒に読んでもらいたい本をリクエストしてもらっているので。

青：つまり、“利用者ニーズ”と言われているものの中に、個人の（要望からの）リクエストというニーズと、教員が学校図書館で与えるべき本を選ぶというニーズの二つがあるのですね。

橋：＜志向性δ　生徒の情報リテラシー養成の重視＞ですが、OPAC に MARC データ以外のキーワードを入力している学校は他にありますか？[私立共学インターナショナルスクール･中高一貫 G 校]は、雑誌の記事索引も（OPAC に）入力しているということですが。

青：検索した時に引っかからないと意味がないので、タグをつけています。

f：約 5 万冊遡及入力されていたのですが、大失敗で…。OPAC でキーワードがヒットしないと、本はあるのに無いと思われてしまう。

橋：＜β＞の「大学図書館」から「大人」に変えるというご提案は、そのとおりかもしれません。

k：＜β＞を見て感じたのですが、うちはあまりないですけど、周りの司書教諭には教養派の人がいますよね。

j：確かに。

k：受験を意識するような学校には、やはり「大学」への意識があると思います。私は、「大学」とは別建てで「大人」という別の志向性を入れた方がよいと思いますね。大人への成長段階というのと別に、大学の学部とか専攻分野の世界を見せるための選書があると思うので。「大人への」だけでは説明できないコレクションはあると思います。

青：そろそろお時間になってしまいました。今日は、面白いお話ができました。ありがとうございました。